

プロトコルID	202301
プロトコル名	供給制限に伴う鎮咳薬の代替変更
目的	<p><u>(現状)</u> 供給制限の影響により、院外薬局では鎮咳薬の医薬品の在庫確保が困難な状況が継続している。供給制限となっている医薬品の在庫状況は、院外薬局間でも偏在しており、処方医療機関での現用把握および対応は困難であり、院外薬局において在庫がない際の代替薬について問い合わせが多くある。</p> <p><u>(目的)</u> 供給制限に伴う代替薬をプロトコル化することで、医師への問い合わせ減少および院外薬局薬剤師の業務軽減が期待される。また医療機関への問い合わせ等で生じる時間の短縮による患者への利点もある。</p>
医療の質（安全性・有効性など）	どの成分をくくるのか、また用法・用量については事前に医師と協議のもとに行った。以下に示す同効薬の鎮咳作用は同等と考えるため、有効性は確保できる。
医療スタッフの負担軽減	院外薬局からの問い合わせ等の減少により、医師・薬剤師の業務負担の軽減が期待される。プロトコルに準じて変更された薬剤は、FAXで変更の旨を報告することとし、患者カルテ内容へスキャンして共有することで情報共有を図る。また薬剤部でFAX応需後、どの薬剤へ変更したかカルテ記載を残す。
手順	<p>院外薬局において、以下に示す医薬品の在庫が無い場合には、薬局の医薬品状況に応じて切り替えることを可能とする。（※ 代替薬変更に関する問い合わせは不要、変更した旨についてはFAXでの事後報告を必要とする）</p> <p><u>(鎮咳薬：中枢性非麻薬性)</u> アストミン錠 1回 10～20mg アスベリン錠 1回 20～40mg デキストロメトルフアン臭化水素酸塩 1回 15～30mg フスタゾール糖衣錠 1回 10～20mg メジコン錠 1回 15～30mg メジコン散 1回 15～30mg（カ価） レスプレン錠 1回20～30mg</p> <p><u>(鎮咳薬：中枢性麻薬性)</u> カフコデN配合錠 1回 2錠 フスコデ配合錠 1回 3錠</p> <p>ただし患者の併用薬剤等を把握し、併用注意等に留意した薬剤選択を行う。また当該プロトコルの運用は、医薬品の供給制限が解除されるまでとし、供給制限が継続する場合は2025年3月に検討する。</p>
ガイドライン・根拠等	治療薬マニュアル 2023
備考	<p>【本プロトコルを適用する診療科・医師】 対象薬剤：鎮咳薬（院外処方） 対象範囲：全診療科医師</p> <p>【プロトコル適応に伴う医薬品マスター対応】 現在、院外採用がないフスタゾール糖衣錠、カフコデ配合錠は院外採用薬としてマスター登録する</p>
適用開始日	2023年12月18日
薬剤管理委員会承認日	2023年12月15日